『クロニカ・メヒカーナ』について

『クロニカ・メヒカーナ(Crónica mexicana、以下 CM と略記)』は、16世紀末にエルナンド・デ・アルバラード・テソソモク Hernando de Alvarado Tezozómoc)が編んだとされる歴史記録である。アルバラード・テソソモクは、テノチティトランのメシーカ王家の子孫で、モテクソマ・ショコヨトル(モクテスマ2世)の孫、アシャヤカトルの曾孫に当たる。いわゆるアステカ王国(三都市同盟、1430年頃~1521年)の中核を担ったテノチティトランの繋栄の歴史をメシーカ王家の視点から詳細に綴った文書で、アステカ王国史研究に欠かせない重要史料である。

『CM』は、メシーカ人の歴史を112章にわたってスペイン語で叙述したもので、一部の欠落している章を除きほぼ全編が現代に伝わっている。数百年もの間、写本という形のみで伝えられていたこの史料は、19世紀に初めて公刊された。メキシコ国内での最初の出版は、1878年、メキシコの国立総合文書館(AGN)の写本に基づいたマヌエル・オロスコ・イ・ベラ(Manuel Orozco y Berra)が公刊したテクストである。このテクストは、メキシコの大手出版社であるポルーア(Porrúa)社で版を重ね、これまでもっとも読まれる機会の多いものとなっている。。

『CM』と類似した記述内容を含む史料がいくつか存在する。ドミニコ会士ディエゴ・ドゥラン(Diego Durán)の『ヌエバ・エスパーニャ誌(Historia de las Indias de Nueva España e islas de Tierra Firme)』²やイエズス会士フアン・デ・トバール(Juan de Tovar)の『インディオの起源に関する報告書(Relación del origen de los indios que habitan en esta Nueva España)』(別名『トバール手稿(Manuscrito Tovar)』)³は、その例である。

同じ情報源に基づくと思われる複数の史料の存在は早くから指摘されてきた

¹ Hernando Alvarado Tezozomoc, *Crónica mexicana, precedida del Códice Ramírez*. Ed. de Manuel Orozco y Berra, México, Porrúa, 1980[1878].

² Diego Durán, *Historia de las Indias de Nueva España e islas de Tierra Firme*. Ed. de José Fernando Ramírez, estudio preliminar de Rosa Camelo y José Rubén Romero Galván, México, Consejo Nacional para la Cultura y las Artes (Cien de México), 1995, 2 vols.

³ Juan de Tovar, *Historia y creencia de los indios de México*. Ed. de José J. Fuente del Pilar, Madrid, Miraguano, 2001.

が、1945年にメキシコ研究者のロバート・H・バーロウがそれらに共通する情報源としての『クロニカ X(Crónica X)』という文書について仮説を立てた。この『クロニカ X』説には様々な修正や追加の提案がなされてきたが、何らかの情報源(ただしクロニカではなく口承伝統と考える研究者もいる)から『CM』を含む複数のクロニカが書かれたという考えは概ね研究者の意見の一致を見ている。 AGN 写本に基づく上記の版が最も読まれてきた一方、1997年にスペインで『CM』の現存する最も古い手稿に基づいた版が出版された⁴。さらに、2021年にはメキシコでこの版をさらに見直し、複数の研究論文を加えたものが出版されている⁵。「クラウス手稿117」と呼ばれるこの手稿は、ワシントン D.C.の米国議会図書館(Library of Congress)に所蔵されている。テソソモク自身の筆によるものではないものの、AGN 写本よりも原本に近い内容を保っていると考えられている。

20世紀後半以降、植民地時代メキシコの先住民史料の研究が急速に進められていく中で、アルバラード・テソソモクおよび『CM』の研究も着実に重ねられてきた。例えば、メキシコ国立自治大学のホセ・ルベン・ロメロ・ガルバン José Rubén Romero Galván)、国立人類学歴史学研究所のクレメンティーナ・バトコク (Clementina Battcock)、メキシコ国立自治大学のガブリエル・K・クルエル (Gabriel K. Kruell)、ブリュッセル大学のシルヴィ・ペパストラート (Sylvie Peperstraete) らはこうした研究に重要な貢献をしている。日本語で読めるものはまだ少ないものの、筆者が加わったプロジェクト (Proyecto Crónica Mexicana)のウェブページ (https://www.senshu-u.ac.jp/research/mexicana/studies.html) では、こうした研究の一部を紹介しているので参照されたい。

文責:井上幸孝(専修大学)

4

⁴ Hernando de Alvarado Tezozomoc, Crónica Mexicana. Ed. de Gonzalo Díaz Migoyo y Germán Vázquez Chamorro, Madrid, Historia 16 (Crónicas de América 76), 1997.

⁵ Hernando Alvarado Tezozomoc, *Crónica mexicana. Manuscrito Kraus 117*. Coord. de José Rubén Romero Galván, México, Universidad Nacional Autónoma de México-Instituto de Investigaciones Históricas (Serie Cultura Náhuatl, Fuentes / 14), 2021.